



～2019年度県央エリア年間テーマ～ 「くらしと産地をつなげて、県央エリアの輪を上げよう！」

エリア交流会

5月20日(月)に、大和市シリウスにて、エリア交流会を開催しました。

参加者は、県央エリア3名、林間地区くらぶ「結び葉」4名、海老名地区くらぶ「たたみ」2名、理事1名、職員1名、センター長、合計12名の参加でした。

最初に商品開発チーム「まごころ届け隊」のごはん付き冷凍弁当『七彩おかずともち麦入りわかめご飯セット』のプレゼンを聞きながら、試食をしました。

そして、地区くらぶ「たたみ」のメンバーの方に、パン作り・つまみ細工を



教わりました。

中山冬樹センター長から小林稔センター長に代わられて、初めてのエリア交流会でした。

手ごねのパン作り、つまみ細工をしながら、定例会では出来ない、プライベートの話をしながら、楽しく過ごすことができました。

メンバー各自が作ったパンと、結び葉のメンバーの方々の作られたミネストローネを食べながらの有意義な時間でした。(NY)

民際センター訪問

2月27日(水) エリアのメンバーと外国人女性の会の皆さんで、仕分けをした書き損じハガキを、郵便局で切手に換え、公益財団法人民際センターにお届けしました。

公益財団法人民際センターでは、その切手をお金に換え、ダルニー奨学金として、ラオス、カンボジアの中学生1人につき、1年で14400円を就学支援としています。

ラオス、カンボジアでは、中学校までは、義務教育ですが、多くの児童が、勉強よりも仕事をさせられていて、就学率は6割ぐらいだそうです。就学支援は、主に、制服、靴、靴下、学用品などに使われます。

今年の書き損じハガキで、19人分の支援ができる金額が得られたので、まずは、昨年まで交流のあった、ラオスの中学校の生徒さんへの支援を決めました。

ラオスの中学校は、4年制なので、卒業までの4年分を4人支援し、カンボジアの中学校は、3年制なので、3年分を1人支援することに決めました。

皆さんのハガキが、ラオス、カンボジアの中学生の将来に光を当てています。

ありがとうございました。

(NN)



メンバーのお気に入り vol.92

我が家の常備品の1つ『北海道コーンがおいしいスープ』です。

遺伝子組み換えでない、北海道産のとうもろこしが原料で、化学調味料を使用しておらず、やさしい味です♥

包装の裏側にある「つくりかた」には、カップに入れて熱湯をそそぎ、かきまぜる…と、あるのですが裏ワザ(?)を紹介いたします!!

カップに入れて、大きじ2杯弱の水を注ぎ、かきまぜてから熱湯を注ぎます。

ダメになりますので、ぜひ、お試しください!

(AK)

